

ろうさい病院（災害拠点病院）の災害救護訓練

防火・災害対策委員長 小木曾 清二

3月11日の東日本大震災、9月の相次ぐ台風の上陸など歴史的な大災害が続けて発生しています。東海地域では東海地震、東南海地震、南海地震の連動型大地震発生が危惧されています。

当院は災害時の医療救護活動に積極的に参加するように努めており、東日本大震災の被災地に医療チームを派遣して救護活動を行いました。福島原子力発電所の復旧工事に従事している作業員の方々の健康管理にも医師を派遣しています。

当院はまた愛知県災害拠点病院（地域災害医療センター）に指定されており、大災害時には港区の拠点病院として医療救護活動を行います。港区一带は埋め立て地で海拔0メートル地帯も多く、地震、津波、液状化などに不利な立地条件ですので、大地震発生時にはこの地区でも大きな被害と多数の負傷者が出るのが予想されます。

災害救護活動を迅速、円滑に行なうため

には、日頃から勉強会や訓練を行なって準備することが必要です。非常時の医療活動への職員の意識を高めて、必要な知識や技術の向上を図るために、毎年秋に大災害を想定した災害救護訓練を行なっています。今年も10月29日（土曜日）に大地震災害を想定した訓練を実施しました。今回は病院も被災した状況で限られた人員と医療資源で多数の傷病者の治療を行なう訓練を行いました。毎年、港区婦人会、港区消防署、警察署の方々にも協力していただき、本番さながらの有意義な訓練になるように取り組んでいます。

毎年訓練を行なうことで、災害医療への意識は高まっています。各職員がもしもの時に備えた心と行動の準備をすることが大切と考えています。

災害拠点病院の任務をしっかりと果たせるようにさらに努力していきます。



災害訓練風景①



災害訓練風景②